



NPO法人

フキックス・コルプス

NPO法人フキックス・コルプスは葺合高校の教師及び卒業生により設立され、グローバルな人材育成を目的として活動しています。FUKIX NEWS第10号では、2020年3月に葺合高校を卒業後、関西学院大学社会学部に進学し現在は国土交通省の航空管制官採用試験に合格した猪熊菜結さんに色々なお話をお伺いしました。

■ 現在の状況と今後の予定

今は関西学院大学社会学部のフィールド文化学専攻分野に所属しており、この3月に卒業予定です。就職先として国土交通省所属の航空管制官採用試験に合格し、2025年の12月から訓練生として関西国際空港の対岸にある航空保安大学校に入学し8ヶ月間の研修を受ける予定です。それまでは大学1年から続けているアルバイト先で働きながらお金を貯めて、悔いが残らないよう国内外問わず旅行しまくる予定です！！

■ 葺合高校を卒業後、関西学院大学社会学部に進学したのはなぜですか。

私は元々オーストラリアの大学へ進学することを志望しており、合格もいただいていた。海外進学を志したのはオーストラリアで観光学を学びたかったためです。特にクイーンズランド州は国際的な観光都市で、大学では観光学を座学としてだけではなく、大学連携のインターンシップも通って実践的に学ぶことが出来る環境が整っていました。しかし高校3年時にコロナが直撃し、またオーストラリアは他国よりも入国制限が厳しく、あらゆる選択肢を考えた結果、断腸の思いで海外進学を断念し国内の大学に進学することにしました。観光学が学べる国内大学は以前から調べていましたが自分の学びたい内容とは合わず、そこで葺合で研究していたテーマであるマスメディアやジェンダーについてより深く学びたいと思い立ち、関西学院大学社会学部を受験しました。

関西学院大学社会学部を選んだ理由の1つは受験時点で専攻を選ぶ必要がなく、他大学より教授の人数が多いためメディア学やジェンダー学はもちろん、心理学や環境学、言語学など幅広い分野の授業が開講されている点に魅力を感じたためです。もう1つは課題研究の参考研究として用いた論文の著者が関西学院大学社会学部の教授で、興味深く印象に残っていたため、その教授の授業を受けてみたかったからです。悔しい思いを持って入学し、絶対に夢を叶えてみせるという強い意志を持って4年間行動し続けました。その結果多くの貴重な経験をし、夢も叶えることができ、今は関西学院大学を選んで良かったと心から思っています。

-大空への憧れから使命へ 葺合で培った強みを活かす-

■ 国際科での学校生活で頑張ったことや思い出は何ですか。

課題研究とそれに関連してプレゼンテーションすることに熱中した3年間でした。英語の授業でスピーチやディベート、プレゼンテーションをした中で特にプレゼンテーションの楽しさに取りつかれました。葺合ではいろんな授業でプレゼンを作成する機会がありますが毎回力を入れて取り組んでいました。ペアで2年間「女性の美意識と拒食症」について課題研究を行い、大阪大学や全国高校生フォーラムでプレゼンして賞をいただけたのは良い思い出です。

■ 葺合での学びが生かされたエピソードはありますか。

やはりプレゼン能力と人前で話す能力(面接なども含む)は葺合での学びが大学、就活で大きく生かされたと感じています。大学のオープンキャンパスや入試説明会で学生代表としてプレゼンさせていただく機会がありましたが、スライドの構成や話し方について、職員の方だけでなく参加して下さった高校生や保護者の方からもお褒めいただいた時はとても嬉しかったです。「決められた時間の中で何を話すか」「どの順番で話すか」「スライドに何を書くか」「どこを強調するか」といったことを無意識に考えてプレゼン作成できるようになったのは、失敗を繰り返しながらも学び続けた葺合での経験が大きいと思います。大学でさらに経験を重ねたことで、就活では面接に対して一切苦手意識を持たずに楽しんで臨むことができ、管制官の面接試験でも好成績を収めることができました。



■ 航空管制官の仕事内容と管制官になろうと思ったきっかけは何ですか。

航空管制官とは無線でパイロットと交信して飛行する高度や方向などについて指示を出し、秩序と効率を考えて空の安全を守る国家公務員専門職です。空では道や信号が目に見えないので、その代わりとなってパイロットを支えるのが管制官の役目です。まだまだ管制官という仕事そのものが世間に知られていませんが、空港にある高いタワーで働いている人という大抵伝わります笑(もちろん他の場所でも働いています)。

旅行好きの両親の影響で幼い頃から飛行機に乗る機会が多く、幼稚園の時には既に飛行機に関わる仕事に就くと宣言していました。葺合に入学したのも「航空関係の仕事=英語力が必要」と考えたためです。ずっと客室乗務員を目指していましたが、コロナ禍を機に自分の将来について考え直しました。そこで小学生の時に両親から教えてもらったけれど難易度的に自分には無理だと諦めた「航空管制官」という仕事を思い出しました。大学での活動を通じて自分の適性も自覚し、航空保安大学校の説明会で現役の管制官の方とお話しさせていただくなかで、管制官になりたいという思いがさらに溢れ、航空管制官採用試験に向けてがむしゃらに勉強するようになりました。

■ 今後のキャリアビジョンを教えてください。

まずは航空保安大学校に入学して無事に卒業し、配属先の試験やOJTもクリアして航空管制官として独り立ちすることが目標です。訓練生の間は試験の成績が振るわないと退学処分となり、国家公務員としての身分を失う可能性があるため、採用試験に受かったからといって気を抜かず頑張ります。

私は葺合高校に在籍の間、「自分にできることは何か」ということをよく考えていました。様々な授業で世界情勢を学ぶなかで、自分が関心のある分野で社会に貢献したいという思いを常に抱いてました。幼い頃から憧れ続けた航空業界では現在、インバウンドの増加や深刻な人手不足などにより悲しい事故も発生しています。そこには航空管制官に関わる事案もあります。冷静さと協調性を持って航空管制の経験を積み、「大空への憧れ」から変化した「日本の空を守るという使命」を果たし続けられるよう自己研鑽に励んでいきます。

全国転勤なのでいろんな都市を巡って、趣味である水族館巡りを楽しみたいなと思っています！機会があればICAOなど国際機関への海外転勤にも挑戦したいと考えています。

■ 最後に、葺合生へのメッセージをお願いします。

人生の中で必ず大小関わらず挫折を経験することがあると思います。原因は自分の努力不足かもしれないし、コロナのように自分の力ではどうしようもないことかもしれません。そしてそれによって自分が描いた道とは異なる道を選択せざるを得ないかもしれません。しかしそこで選んだ道を正しくないと決めつけるのではなく、己の力でその道を最適解にできるように努力することが一番大事だと思います。そうすれば元々辿り着くはずだった未来よりもきっとより良い未来が待っています。全ての葺合生が逆境の中でも自分の力で未来を切り開いていくことを信じて応援しています。

-点と点を繋げて成長した大学生生活-

■ 大学ではどのようなことに力を入れましたか。

高校以上に新しいことに挑戦するように心がけました。私の場合は航空業界以外にも視野を広げたい&コロナ禍をきっかけに地元貢献したいと考えていました。そこで大学の地域連携プログラムとして、学生目線から地元企業の課題に取り組む長期のインターンシップに参加しました。地元和菓子屋の広報として配属され、若年層にもアプローチできるような商品動画を作ったり、ディスプレイを一新したりと様々なことに取り組みました。形骸化していたオンラインショップの充実にも力を入れることで少しずつ売り上げも伸ばすことができました。プログラム後もインターン生として雇っていただき、デザイナーの方と打ち合わせして新商品のパッケージ制作にも携わりました。

■ インターンシップで身につけた力はありますか。

2年間弱働かせていただきましたが、「誰かのために、誰かと働く」ということを身にしみて経験でき、柔軟性や協調性を高めることが出来ました。社会に出ると「やりたい」だけでは実行に移すことができません。課題を精査し、それを解決する目的や手段を予算に合わせて計画する必要があります。初めの頃はその点が難しかったです。しかし、自分の行動ひとつに製造や販売の方など多くの方が関わっていることを実感したことで、違う視点から解決策を見直したり、他の部署の方と連携を密にして取り組めるようになりました。これは常にチームで働く管制官にとっても重要な力なので、一見自分の夢とは関係ないことでも全てのことが点と点で繋がっていると実感しました。

■ どのように英語力を維持しましたか。

社会学部に入学したこともあり、葺合在籍中と比較して英語を使う頻度が大幅に減少し、英語力の低下を懸念していました。そこで1ターム(1年間で2ターム)で必ず2個以上ALL ENGLISHの講義を取ったり、インバウンドが多い観光地でアルバイトすることで英語力の維持を心がけていました。特にアルバイトでは英語を頻繁に使う環境に自分を置いているので、これも管制官の英語面接やリスニング試験において英語力という点だけでなく、コミュニケーション力という点でプラスに働いたと感じています。

